

令和5年度 にゅうがくしき 入学式 こうちょうしきじ 校長式辞

しきじ 式辞の内容は、別に PDF ファイルにしてあげてあります。御覧ください。ごらん



令和五年度

宮城県立支援学校女川高等学園入学式

式 辞

海風薫るここ女川の地に、春の暖かさが戻ってまいりました。今日の佳き日に、令和五年度宮城県立支援学校女川高等学園の入学式を、このように挙行できますこと、心より感謝申し上げます。ただいま入学を許可いたしました十七名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。また保護者の皆様におかれましては、これまでの義務教育を終え、お子様方が新たな学校生活に臨むスタートラインに立たれたこと、心からお祝い申し上げます。

さてここで、本校の校訓を紹介しつつ、本校での学びを紹介したいと思います。本校の校訓は「自立」「健康」「協調」です。まず「自立」については、いうまでもなく「自分のことは自分でできる」ということです。これは今までもたくさん学んできたことと思いますので、それにより一層の磨きをかけ、本校ではぜ

ひ「自分のことは自分で行い，さらに一つでもいいので，やるべき仕事を自分で見つけて自分で行う」というところを目指してほしいと思います。本校では，学習のかなめに「実習」，特に「産業現場等における実習」があり，そのほかにも部活動や生徒会活動があります。これらの活動には必ず，事前の準備と事後の後片付けがあり，活動そのものをやっただけで満足するようでは，高校生とは言えません。ぜひ活動の準備や後片付けにも気を配り，すぐにではなくともいいので，一つでも率先できるようになれるよう，心がけてください。

つぎに「健康」についてです。健康については，体の健康はもちろんですが，ぜひ心の健康にも気を付けて，大切にしてほしいと考えています。

これからの皆さんの学びは，これまでのように家から通うというのではなく，寄宿舍での生活が始まります。高校生活が始まるというだけでも，十分に心身に負担がかかると思いますが，加えて学校が終わってからも寄宿舍での生活が続くということになります。多くの友だちや先輩たちとたくさん時間を

共有できるという楽しみがある反面，家庭でくつろぐのとは違う緊張感を抱くことがあるかもしれません。ですから，体の健康だけでなく，心の健康にも十分注意して，学校の先生方にももちろんですが，寄宿舎の先生方にも分からないことは聞き，頼るべきところはしっかり頼って，ゆっくりでいいので自分のペースで寄宿舎生活に慣れていってほしいと思います。

最後に「協調」についてですが，これは実は一番難しいことかもしれません。これから皆さんは，県内のいろいろなところから集まってきた友だちや先輩たちと一緒にここ女川の地を学びの場として，学習を進めることになります。これまでの経験でわかっていることかもしれませんが，同じ宮城県内とはいっても，皆さんが生活してきた地域にはそれぞれの行動様式や考え方，文化があります。自分にとってはこれまでやってきたことで，何でもないことであっても，他の人から見るとその行為や行動が，なぜそのようなことをするのかわからないということもありま

す。まずは適切に自分の考えを相手にきちんと伝えることができること、それが「協調」の第一歩です。そのためには自分の考えを一方向的に伝えるのではなく、自分のすることが相手の目にはどのように映るのか、それを想像することができなくてはなりません。これは相当難しいことです。そしてさらに相手の言うこと、話すことにしっかり耳を傾けて、相手が伝えようとしていることをきちんと受け止めることができなければなりません。これもまた大変難しいことです。

けれども本校が、これから社会に巣立っていく際の最後の学びの場となることを考えると、この「協調」は、ぜひとも身につけてほしいことです。3年間かかっても構いません、いや社会に巣立ってからでも、人間は一生学び続ける存在であることを考えると、この「協調」は、一生涯をかけて学び続けていかなければならないものであらうと考えます。

さあ、皆さんの学びの扉が開かれました。これからの学びには、厳しくつらく感じる場面も多々あるか

もしれませんが、楽しく思い出に残るであろうこともまた、必ずたくさんあるはずです。私たちと一緒に、社会に巣立つ「自立」を目指し、一步一步着実に学びを深めていきましょう。

令和五年四月十一日

宮城県立支援学校女川高等学園

校長 浅水 啓一郎